

ビジネスパーソンの風邪に関する意識調査結果

2007年 9月

実施： グラクソ・スミスクライン株式会社

【調査概要】

1.調査目的

ビジネスパーソンの風邪に対する意識を把握

1.調査対象

全国、20歳～39歳の仕事をしている男女208名(有効回答数)

1.調査方法

インターネットモニターから、2007年6月以降に風邪の症状を経験、市販の風邪薬を自ら購入して服用したサンプルを抽出し、インターネット上で調査を実施

1.調査期間

2007年8月15日～8月16日

1.標本構成(有効回答208名)

(性別)

		N	%
1	男性	104	50.0
2	女性	104	50.0
	全体	208	100.0

(年齢)

		N	%
1	20才～24才	20	9.6
2	25才～29才	84	40.4
3	30才～34才	63	30.3
4	35才～39才	41	19.7
	全体	208	100.0

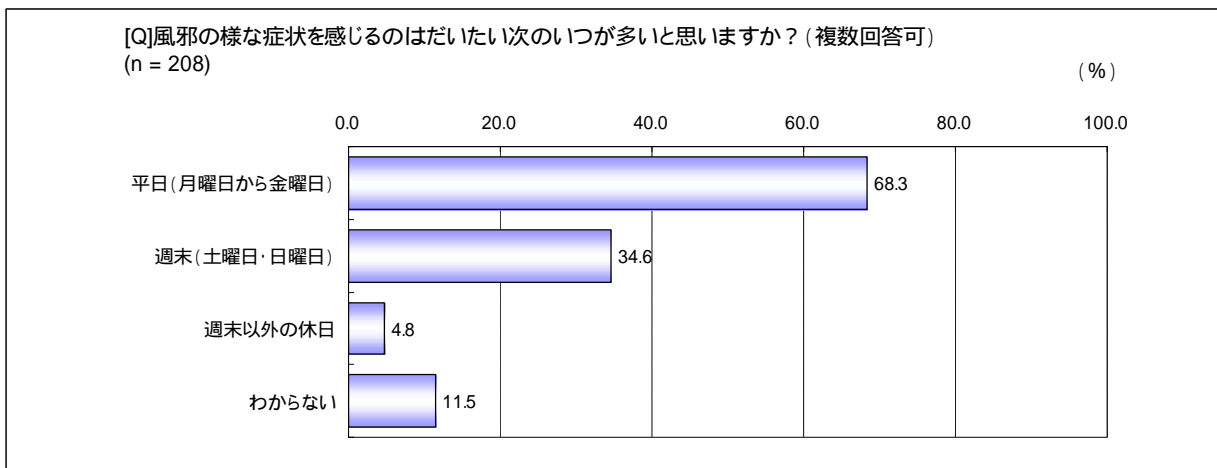
(職業)

		N	%
1	公務員	5	2.4
2	経営者・役員	4	1.9
3	会社員(事務系)	89	42.8
4	会社員(技術系)	51	24.5
5	会社員(その他)	46	22.1
6	自営業	8	3.8
7	自由業	5	2.4
	全体	208	100.0

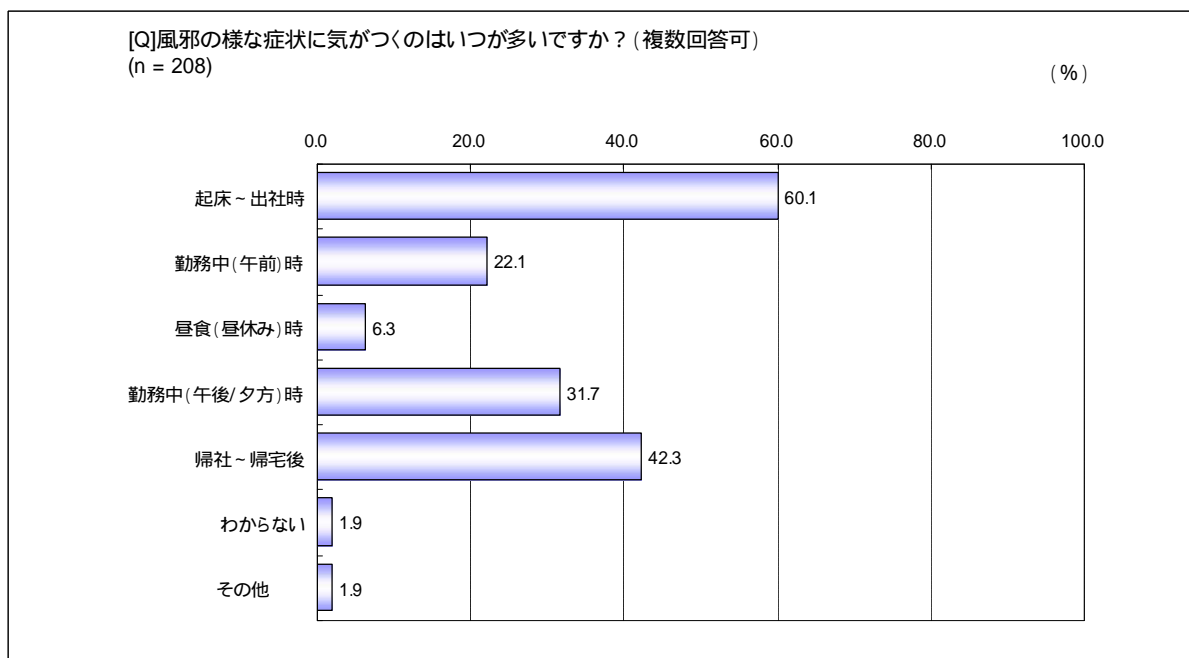
【調査結果】

■ビジネスパーソンの約7割が平日に風邪の症状に気がつく

ビジネスパーソンの68.3%が、平日に風邪の症状に気がつくと認識しています。

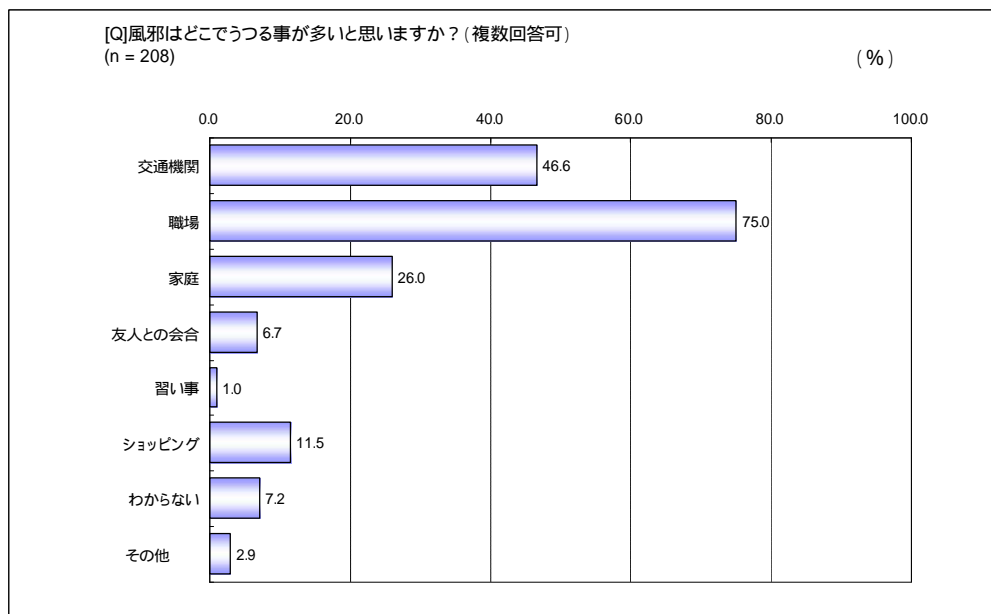


■ビジネスパーソンの約6割が、起床～出社時に風邪の症状に気がつく。一方、4割が帰社～帰宅後
ビジネスパーソンの60.1%が起床～出社時、続いて42.3%が帰社～帰宅後に風邪のような症状に気がつく
と回答し、昼間の忙しい時間は風邪の症状に気がつかない傾向があります。



■ビジネスパーソンの4人に3人が職場で、続いて約半数が交通機関で風邪をうつされると認識

75.0%のビジネスパーソンが、職場で風邪をうつされると認識、46.6%が交通機関でうつされることが多いと回答し、通勤時や職場で人と接する機会の多いビジネスパーソンにとって風邪は身近であることがわかります。

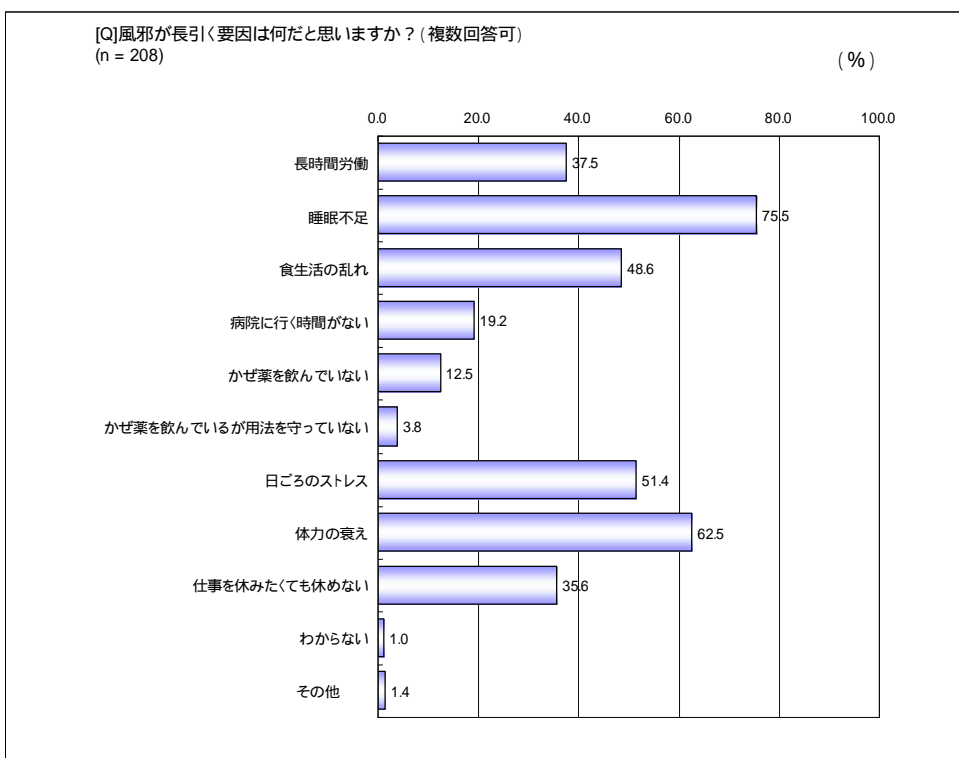


■ビジネスパーソンの風邪が長引く理由は日ごろの生活習慣と関連している傾向

風邪が長引く理由は睡眠不足(75.5%)、体力の衰え(62.5%)、日ごろのストレス(51.4%)と回答し、ビジネスパーソンの風邪が長引く理由は日ごろの生活習慣と関連している傾向があります。

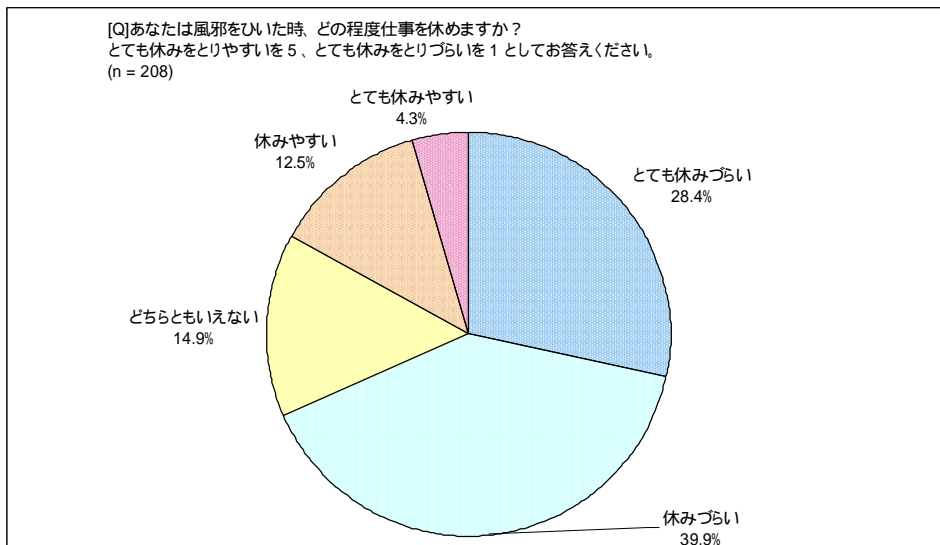
●風邪が長引く原因を「日ごろのストレス」「体力の衰え」と挙げるのは、20代に比べて30代で顕著な傾向

30代の68.3%が風邪が長引く理由を体力の衰え、60.6%が日ごろのストレスと挙げ、体力が衰えると同時に社会的な責任が重くなりストレスを抱える30代では風邪をこじらせやすい傾向があるようです。



■ビジネスパーソンの約7割が風邪を引いたときに仕事を休みづらいと思っている

ビジネスパーソンの68.3%が風邪をひいたとき仕事を休みづらいと回答し、風邪をひいても仕事を優先せざるを得ない風潮があるようです。

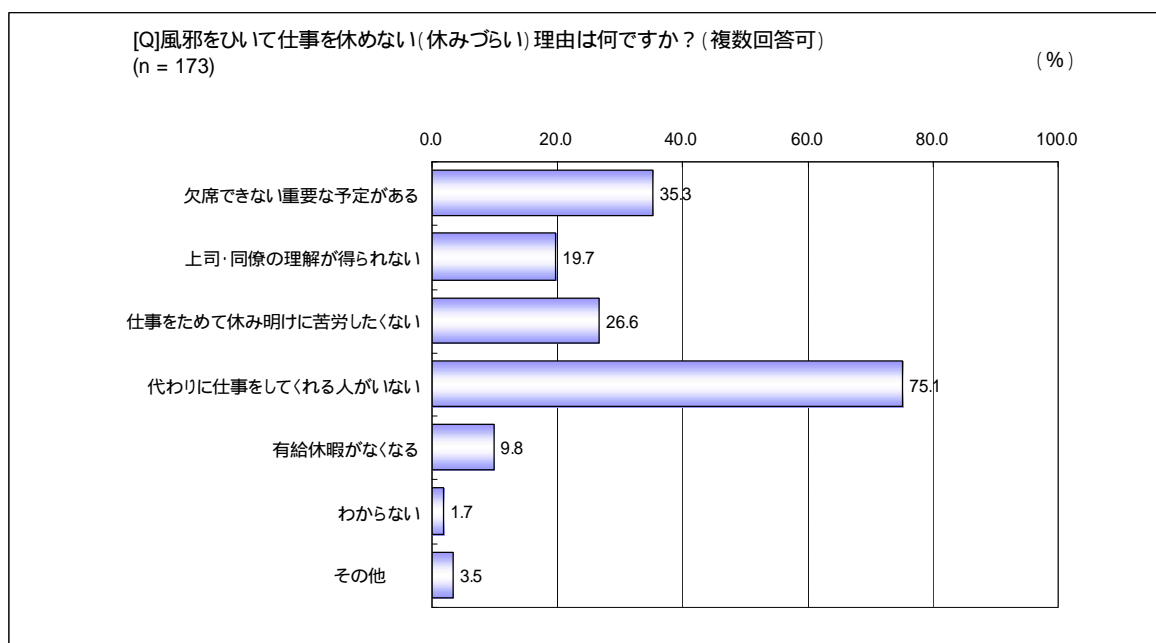


■休みづらい人の最大の理由は、代わりに仕事をしてくれる人がいない

風邪でも仕事を休みづらいと回答したビジネスパーソンのうち、75.1%が代わりに仕事をしてくれる人がいないことを理由に挙げています。

●20代と比べて、30代が代わりに仕事をしてくれる人がいないを理由に挙げる傾向

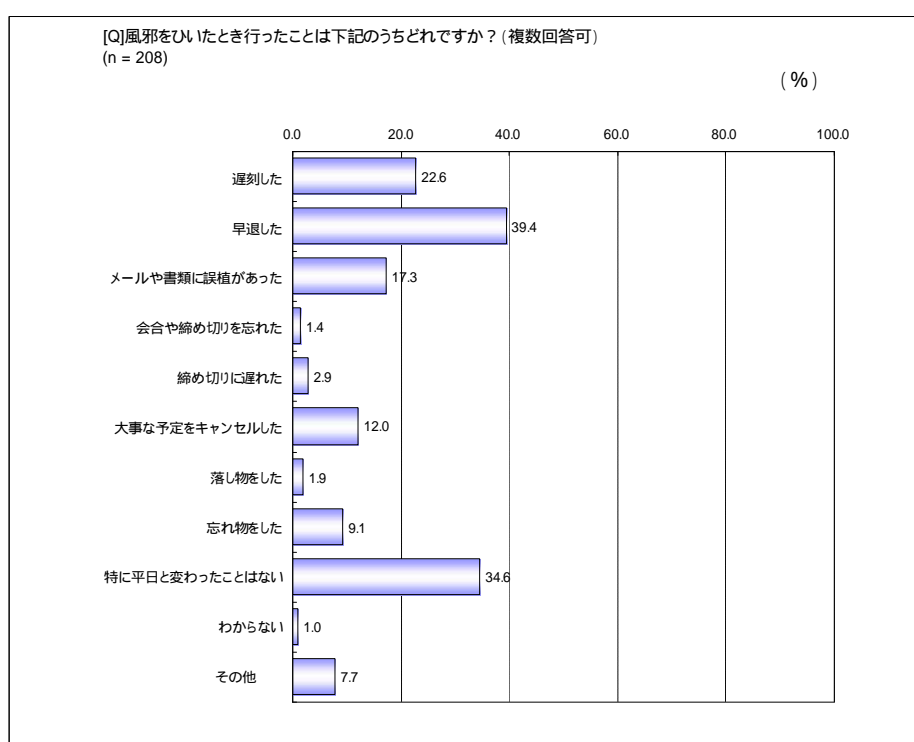
代わりに仕事をしてくれる人がいないと答えた回答者のうち、20代(67.4%)よりも責任の重い立場になる30代(82.8%)が顕著でした。



■ビジネスパーソン約4割が、風邪を引いて早退したことがある。一方、約3割が風邪をひいても特に平日と変わらない

ビジネスパーソン約39.4%が風邪をひいて早退したことがあると答え、また34.6%が特に平日と変わることはないと回答しています。

●女性は風邪をひくと早退、遅刻する傾向、一方男性は風邪でも特に何も変わらない
女性の46.2%が風邪をひいて早退した、30.8%が風邪をひいて遅刻したと回答し、男性と比べて高い傾向が見られました。一方、男性の40.4%が特に平日と変わることはないと回答し、男女の体力差もしくは意識の差が表れていることが読み取れます。

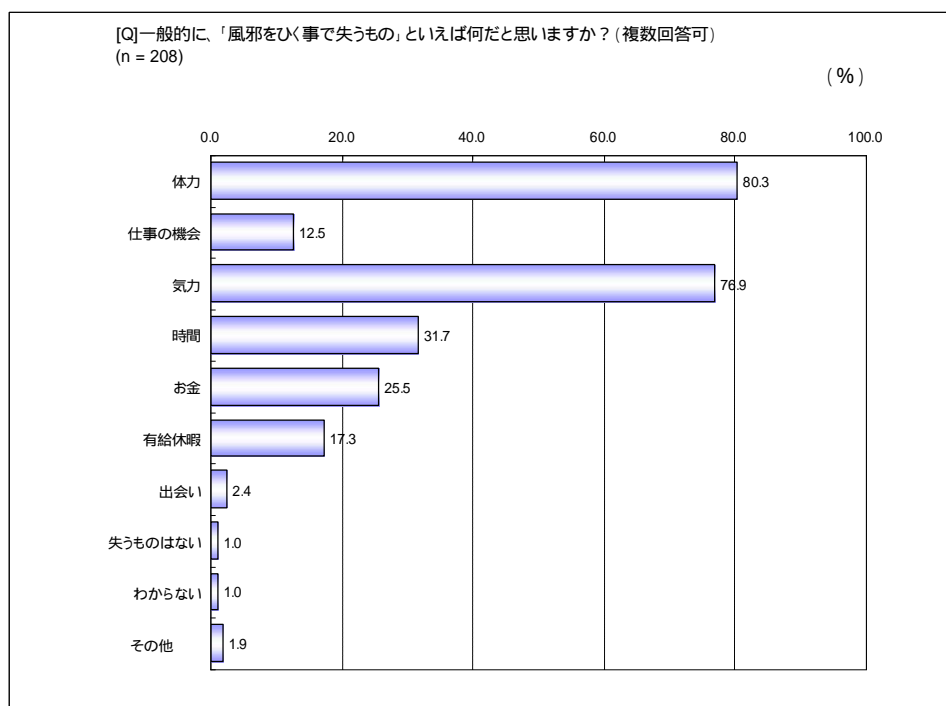


■ビジネスパーソンの約8割が、風邪をひくことで失うのは体力または気力

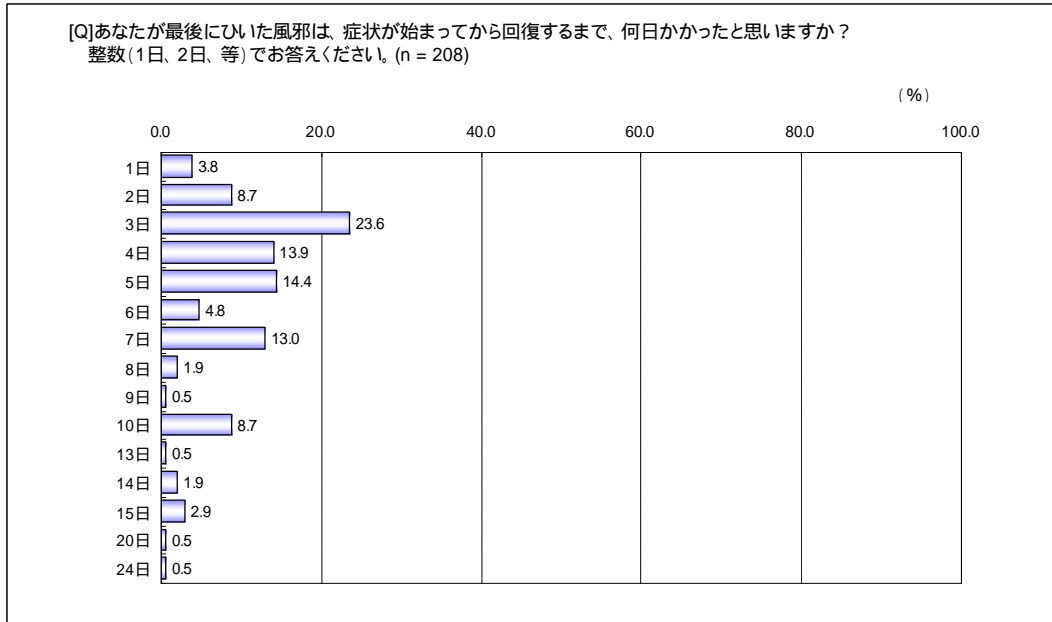
ビジネスパーソンの80.3%が風邪をひいて体力を失うと答え、76.9%が気力を失うと回答し、風邪をひくと心身ともにダメージを受けていることが分かります。

●風邪で時間、お金を失うは、20代よりも30代で顕著な傾向

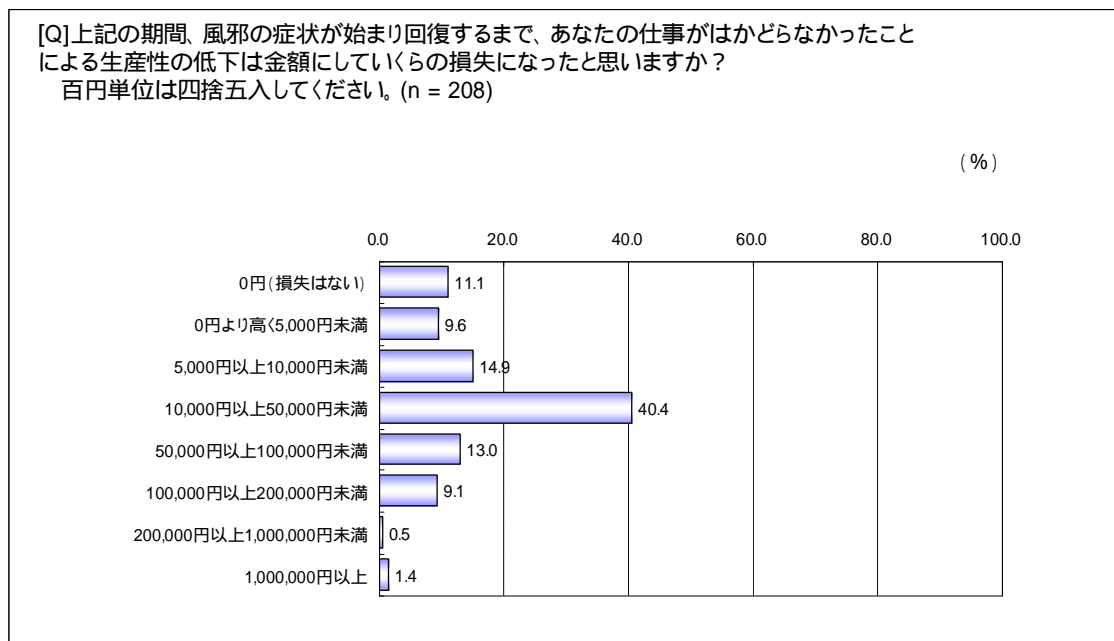
20代と比べて30代のビジネスパーソンは、時間(38.5%)、お金(30.8%)を失うと回答する傾向が高く、より現実的に風邪を損失と意識する傾向があるようです。



■風邪をひいてから治るまでの日数は平均5.4日。
 ビジネスパーソンの半数以上が3日～5日と回答。



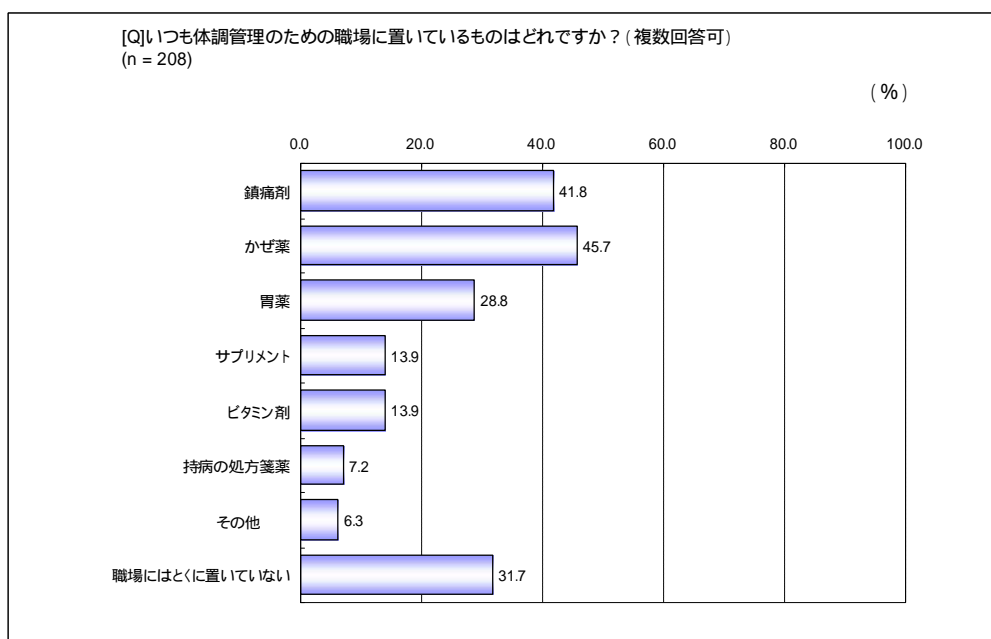
■仕事がかどらないことによる生産性の損失は、風邪1回あたり平均約44,270円。
 男性平均は56,400円、女性平均は32,100円。



■ビジネスパーソンの半数近くが職場にかぜ薬を置いている。約3人に1人が、職場に薬を置いていない。ビジネスパーソンの45.7%が職場にかぜ薬を置いています。一方、31.7%が、薬を置いていないと回答しています。

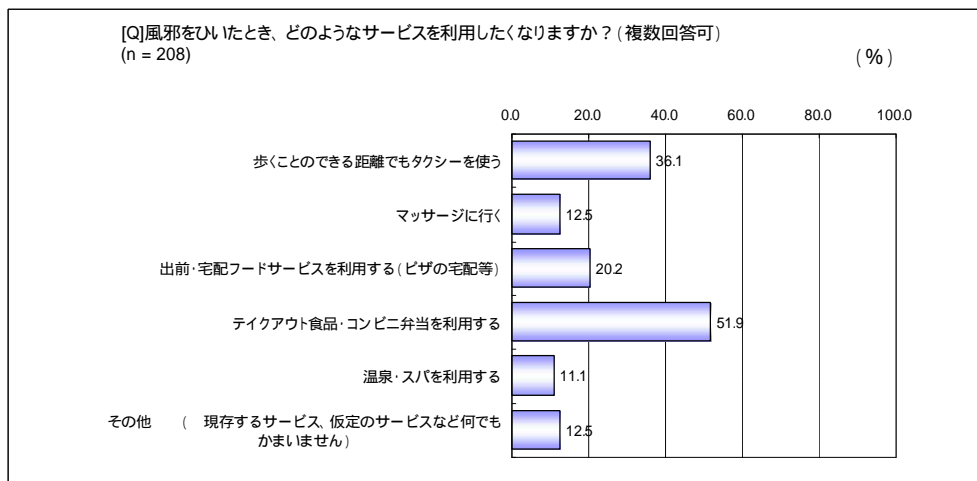
●職場にかぜ薬を置いていないのは、男性に多い傾向

職場にかぜ薬を置いていないのは、女性と比べて男性に顕著な傾向。女性の23.1%に対し、男性の40.4%が特に何も置いていないと回答しています。



■ビジネスパーソンの半数以上が、風邪を引いたとき、テイクアウト食品・コンビニ弁当を利用したい。4割近くが歩くことのできる距離でもタクシーを使いたい。

ビジネスパーソンの51.9%がテイクアウト食品・コンビニ弁当を利用したい、36.1%が歩くことのできる距離でもタクシーを使いたいと回答。風邪をひいたときはお金を払ってでも楽をしたい傾向があります。



その他、下記のようなサービスがあったらよいという意見も。

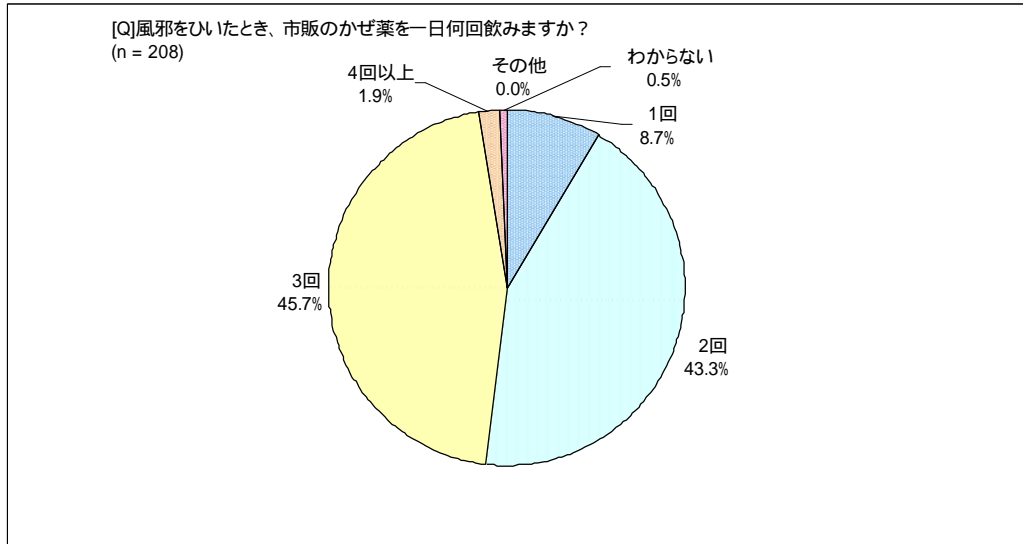
「仕事先に伝えるサービス」(20代女性)

「症状がひどい時は電車の優先座席、市販薬のデリバリーや飲料デリバリーがほしい。買いに出るのがつらい。」(20代女性)

「身の回りの世話を全般的にしてくれるサービス」(30代男性)

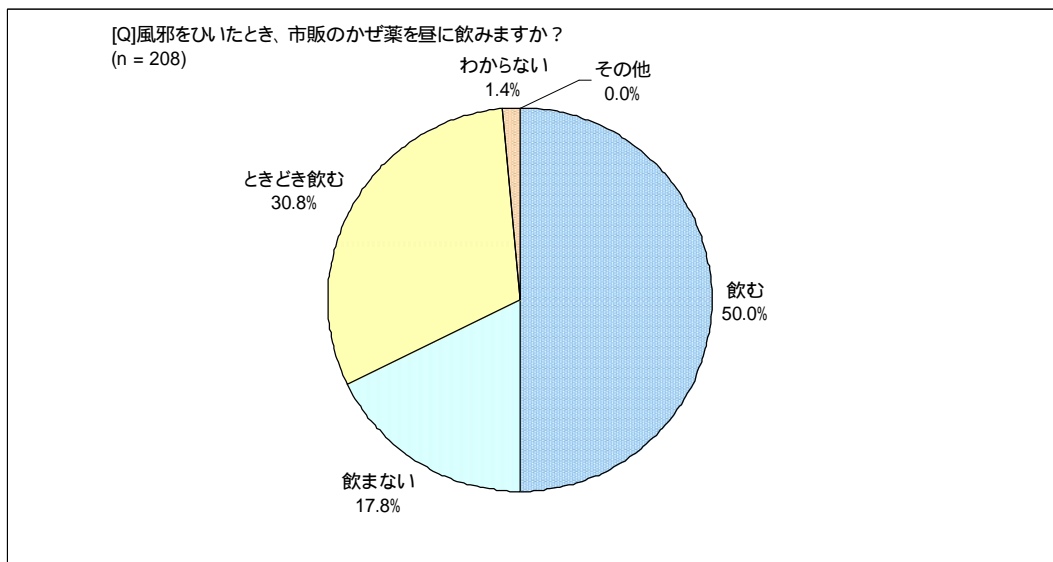
■ビジネスパーソンの約4割が風邪薬を1日2回飲む

ビジネスパーソンの43.3%が風邪薬を1日に飲む回数は2回と回答しています。市販の風邪薬のほとんどが1日3回薬であることから、用法を守っていない可能性があります。



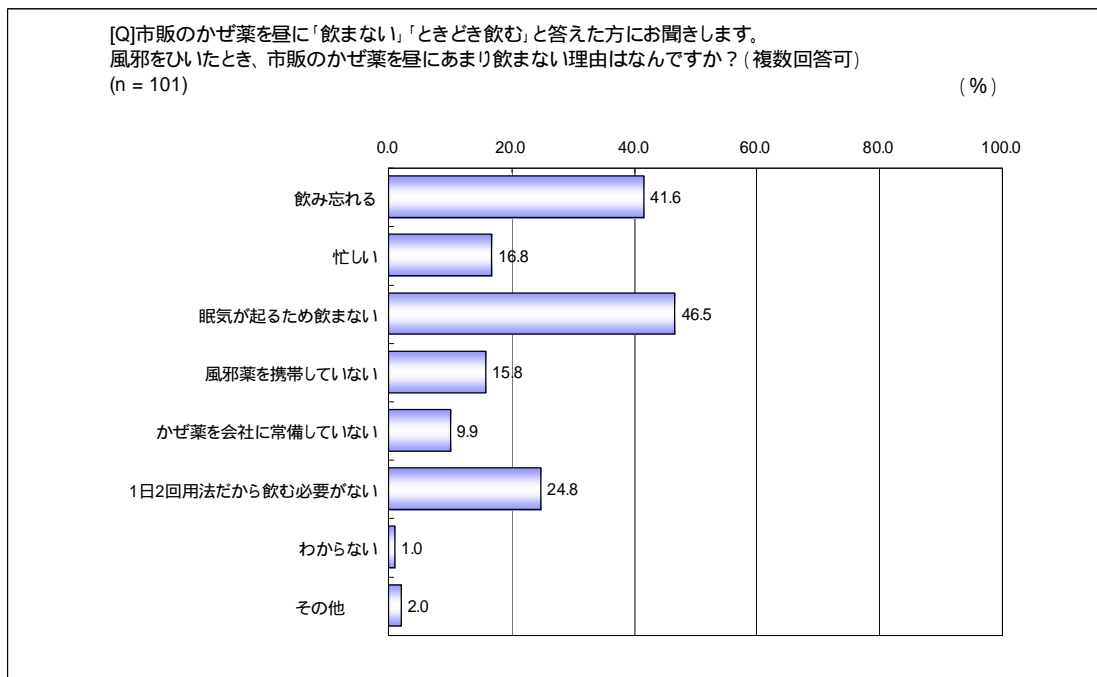
■ビジネスパーソンの約半数が、昼に風邪薬を飲まないことがある

ビジネスパーソンの48.6%が昼に風邪薬を飲まないことがあると回答しています。



■ビジネスパーソンの半数近くが、風邪薬を昼に飲まない理由を、眠気が起るためと答える。続いて、約4割が飲み忘れる。

風邪薬を昼に飲まない理由として、46.5%のビジネスパーソンが眠気が起きることを挙げ、41.6%が飲み忘れることを挙げています。一方、1日2回薬だから飲まないと答えたのは24.8%に過ぎず、1日3回薬を飲んでいる人が用法を守っていない傾向があります。

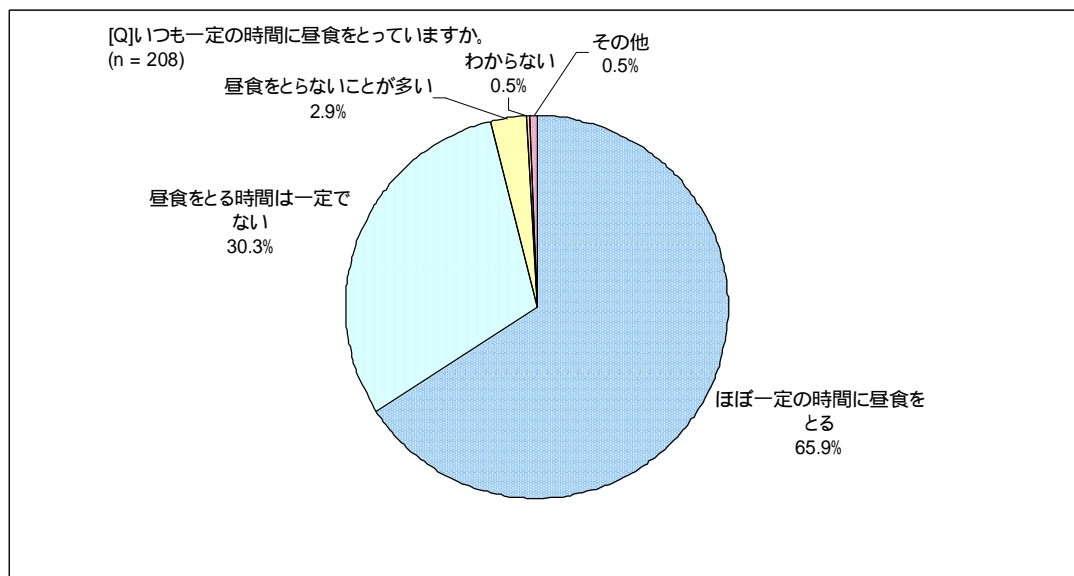


■ビジネスパーソンの約3人に1人が、昼食をとる時間は一定ではないと回答

普段昼食をとる時間が一定ではないと回答する人は30.3%にのぼり、昼に風邪薬を飲まない理由は、不規則な時間に昼食をとっていることも影響しているのではないかと考えられます。

●30代よりも20代のほうが昼食を一定の時間にとらない傾向

30代(19.2%)と比べて20代(41.3%)が、普段昼食をとる時間は一定ではないと答えています。



【本資料に関するお問い合わせ先】

グラクソ・スミスクライン株式会社

担当：中村、小松

Tel: 03-5786-5030, Fax: 03-5786-5215

E-mail: kazuaki.nakamura@gsk.com

<http://glaxosmithkline.co.jp>

「コンタック」のウェブサイト: <http://contac.jp>